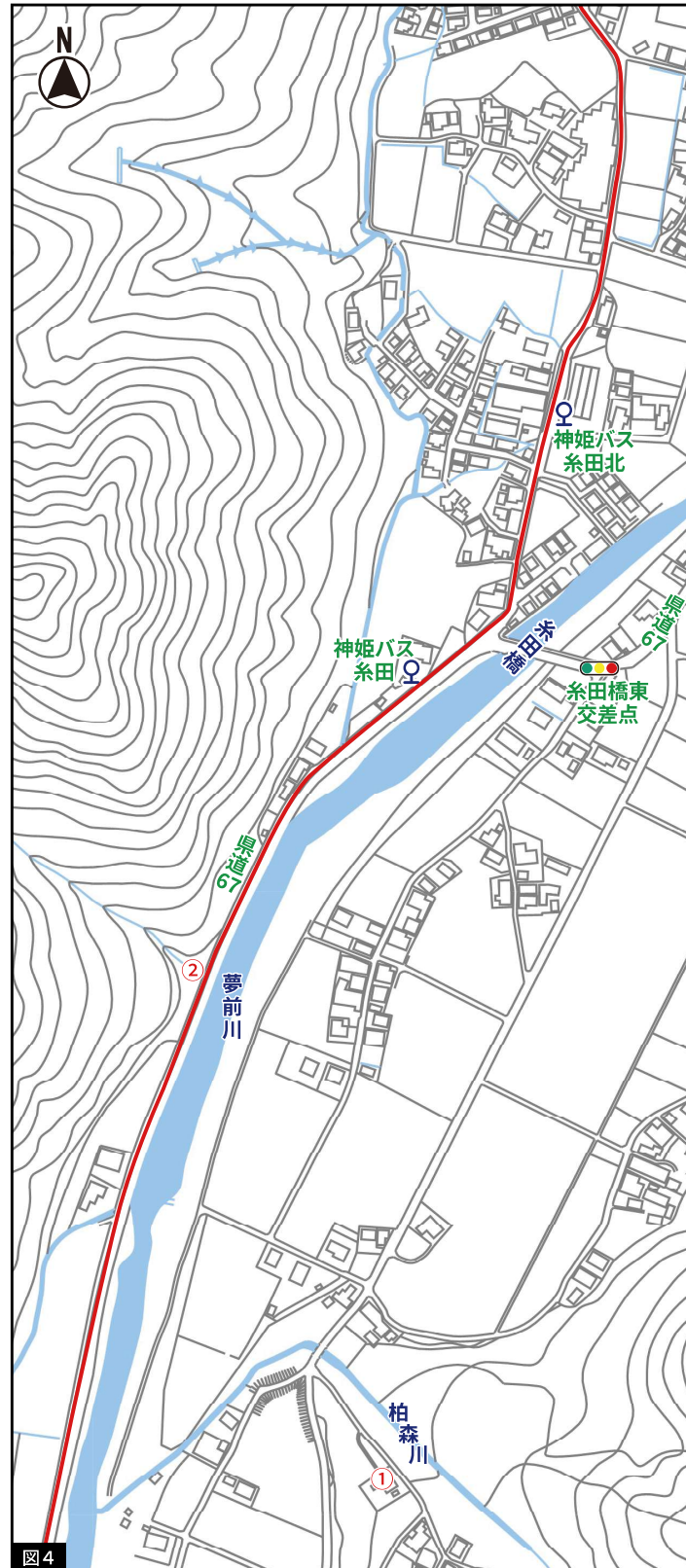


『西国三十三所巡礼道』をたずねてその5



【図4】

- ① 栢森神社 (糸田の鎮守、置塩城本丸鎮座神の分祀、置塩城搦手に位置、図2①参照)
- ② 糸田梅谷石剣出土地 (弥生時代中期の農耕用祭器とみられる、昭和38年発見)

巡礼往来手形挟 (個人蔵)

天保12年(1841)3月4日
奉納西国三拾三所 為二世案穩



弘化2年(1845)奉納四国八十八所



天保12年(1841)西国三十三所巡礼の往来手形挟を弘化2年(1845)四国八十八所巡礼の往来手形挟として再利用したもの



【図1】

- ① ほきの子安地藏
- ② 宝永4年(1707)回国地藏
- ③ 法界寺 (天台宗、山号置塩山、本尊薬師如来、開基性空上人、慶長年間(1596-1615)書写山僧快倫中興)
- ④ 嘉永4年(1851)石造地藏坐像
- ⑤ 鞍掛山城跡標柱 (鞍掛山城は当地宮置より北西、標高320mの鞍掛山山上に築かれ、戦国時代の置塩城の出城に位置するという)
- ⑥ 若宮神社跡 (置本の鎮守)

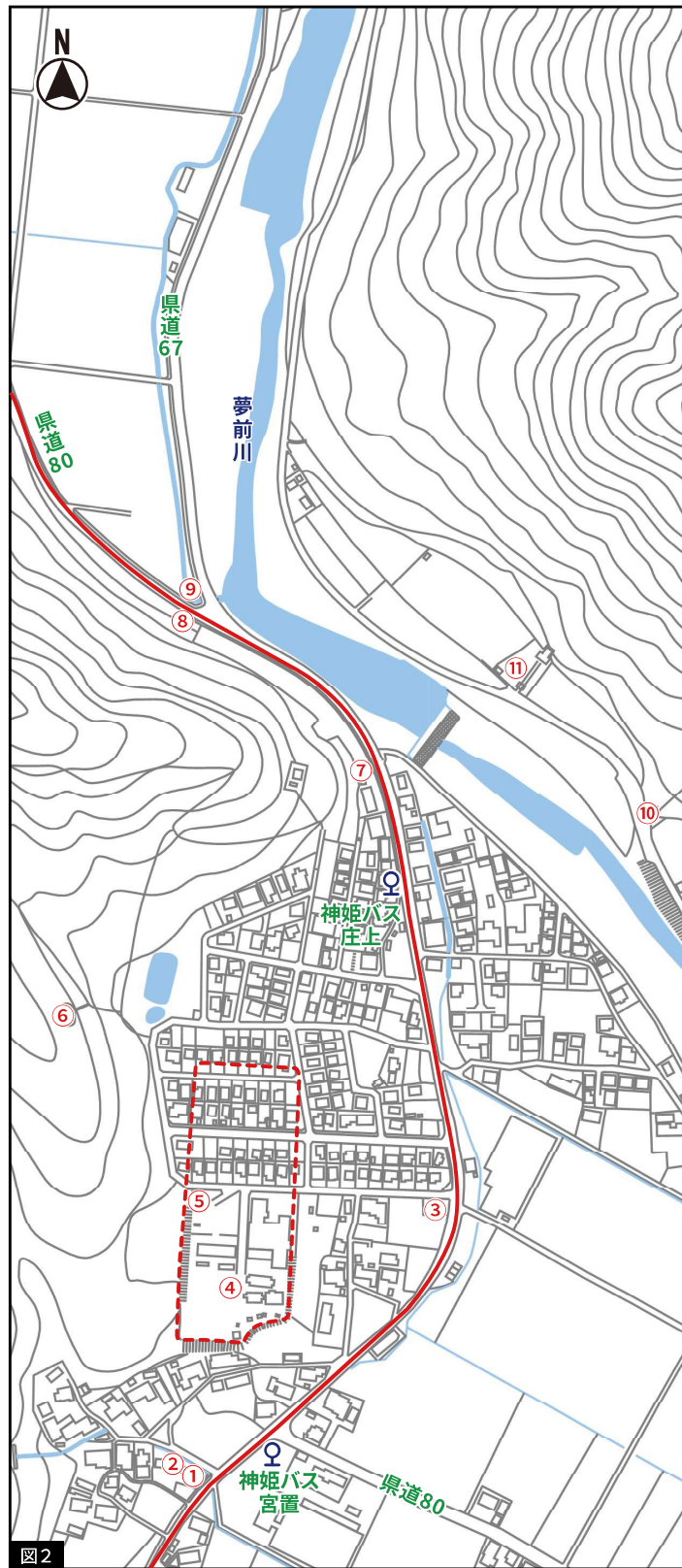
文政10年(1827)新增補細見指南車

(1) 巡礼の準備



(2) 笠の書付の仕やう





【図2】

①図1註④

②図1註⑤

③八幡社(旧無格社、宮置の鎮守)

④守護居館跡推定地(点線枠附近、16世紀赤松義村時代の播磨守護赤松家の守護所「置塩」跡推定地、岡前遺跡)

⑤青木稻荷大神

⑥松安寺跡(廃寺、播磨守護赤松義祐が赤松家菩提寺として建立、山号長福山、延宝5年(1677))坦然道寛中興一世、臨済宗黄檗派に改宗、境内跡地に市指定「松安寺墓石群」、伝赤松義祐造立の石造地藏菩薩立像、右に赤松義祐暮塔(松安寺殿前左京兆永岳性延大禅定門 天正四年二月十日刻銘)、左に赤松晴政暮塔(常照院殿前左京兆天松性瀧大禅定門 永禄八乙丑年正月十六日刻銘)、左端に赤松晴政正室暮塔(弘徳院殿永溪松院大姉 弘治二年十月八日刻銘)

⑦地藏堂

⑧寛政4年(1792)題目塔(正面：南無妙法蓮華経 日蓮大菩薩、左側面：為施入志諸精霊先祖代々精霊仏果菩薩、右側面：置塩庄中村住願主志水清兵衛 寛政四壬子四月二十八日法修行院宝寿日化修善院妙諦日成 世話人同所市村与八郎 台石(正面：法界万霊、右側面：巡礼道)

⑨弥勒寺道道標(正面：性空上人隠棲終焉之霊場 従是二十丁、右側面：勅願所通宝山弥勒寺道 兵庫県、背面：華山上皇御臨幸之道蹟地)

⑩置塩城跡登山口

⑪櫃蔵神社(旧郷社格、山富・置本・宮置・又坂・糸田の総鎮守、置塩城主赤松則房阿波転封の際、本丸鎮座神を三所(当社・栢森神社(図4①)・香寺町恒屋の櫃倉神社)に分祀したという。弘化4年(1847)鬼瓦、拝殿前文化2年(1805)石燈籠一對、文久2年(1862)祭礼絵馬、拝殿内八大龍王大神石、市指定記念物「櫃蔵神社の大いちょう」)



【図3】

【図3】

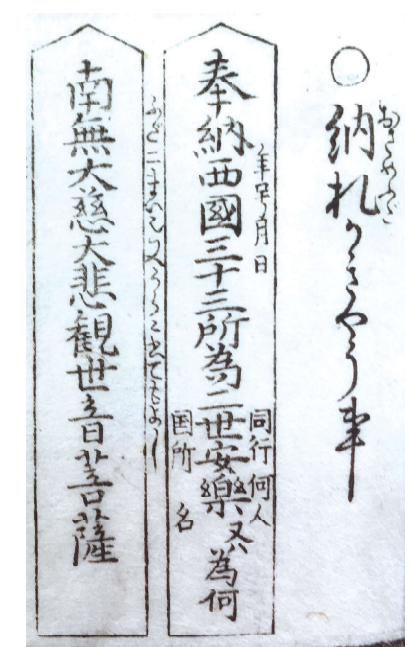
①浄安寺(臨済宗妙心寺派、山号三寶山、開山徳峯和尚、永正15年(1518)宝篋印塔(伝播磨守護赤松義村供養塔、月溪祥光大居士 永正十五年戊寅十二月二十八日刻銘))

②大年神社(又坂の鎮守)・国所大明神

③地藏堂(地藏坐像台石：一字一石金剛経塔刻銘)

文政10年(1827)新增補細見指南車

(3)納札(おさめふだ)かきやう事



(4)笈摺(おいずる)書付仕やう

